

# CIR 紹介



スティーブ・  
ジョンソンさん  
(Stephen Johnson)

## 日本が大好きです!

皆様、初めまして。アメリカ・ニューハンプシャー出身のスティーブ(Stephen)です。2015年8月から、川崎市役所で「国際交流員(CIR:Coordinator for International Relations)」として勤めています。

高校生の時に芥川龍之介や川端康成の作品の英訳を読み、日本の優れた文学に強い興味を持ちました。いつか原文(日本語)でも読んでみたいという気持ちから大学で日本語を勉強し始めたところ、日本についてもっともっと知りたくなり、3年生の時に1年間東京へ留学をしました。留学中は津軽三味線の教室に通ったり、世界遺産の熊野古道を8日間かけて歩いたり、さまざまな体験をして実際の日本を感じ、この国をさらに好きになりました。そのときから、アメリカの大学を卒業したらすぐ日本に戻りたいと思っていました。

今回その念願が叶い、日本に来ることができました。世界に誇れる環境技術や先端リサーチ施設があり、スポーツや芸術活動がとても活発なこの川崎で初めての仕事をやる機会に恵まれ、本当にありがたく思っています。また、日本に長期滞在し、今まで気づくことがなかった「新しい日本」に出会うこともとても楽しみです。皆様、どうぞよろしくお願いいたします!

(文・写真:スティーブ・ジョンソンさん)

## 『ブラジリアン・フェスタ』 ~文化でつなぐブラジルと日本~

120周年を迎える日本・ブラジル外交関係樹立を記念するイベントとして、10月3日(土)・4日(日)に「ブラジリアン・フェスタ」が開催されました。

サンバ、カポエイラ(ブラジル格闘技)、ボサノバ、サッカー、コーヒー…など、日本人にとってブラジルの文化はとても魅力的で身近なものになっています。

今回のフェスタでもたくさんのブラジルを体感することができたのではないのでしょうか?



アレグリア(G.R.E.S. ALEGRIA)  
(サンバショー)



マルキーニョス・ロペスさん  
(ボサノバギター)



三田千代子元上智大学教授(講演講師)

4日(日)は講師に三田千代子先生(元上智大学教授)をお迎えして、講演会「ブラジル日本移民100年の軌跡」が開かれました。「出稼ぎ」という日本語が「デカセギ」というポルトガル語を創出した背景を中心にわかりやすく解説していただきました。

「人が動く新たな文化が根付いていく」という言葉通り、現在のブラジルには日本の文化である盆踊り、運動会、日本庭園、キャベツの千切りの添えられた「とんかつ」等々が存在することを知り、改めて100余年前の日系移民の方々に思いを馳せる時間となりました。

(左)在東京ブラジル総領事館  
レオナルド・ベレス・リマ副領事  
(右)(公財)川崎市国際交流協会 山田長満会長  
(中央)協会ポルトガル語相談員 中森ジュリア職員

(取材・文:編集ボランティア 相沢明子)  
(写真:撮影ボランティア 安田芳郎)



大人気のブラジル屋台



ピエロのバルーンアート